



ザイサンの丘から市内遠望

- ノミンテパートでお土産購入。スリに注意。
- 19:00 夕食
フクライナ料理 サラダ、鶏肉、そば料理、ケーキに紅茶などボリュームとて大。店内は大賑わい。ホテルへ帰り、エギーさんの紹介でロシア製のキャピラ購入。
- 21:00 バブで二次会
生演奏を聞きながらハンブロイで乾杯。唐突に日本モンゴル親善協会の横沢会長と会う。ステージでは生演奏が続ぎ、日本人観光客のためにと女性ツインボーカルが「キロク」を歌うモンゴル最後の夜を堪能。
- 23:00 就寝
- 6月14日(土) 晴れ時々曇り
- 4:00 起床。眠い。
- 5:00 ホテル出発。
- 5:20 テンギス・ハーン空港着。
エギーさんとポルトさんと硬い握手。これまでの感謝をしてお別れ。
免税店で朝青龍と会う。(驚き悪〜)
- 6:45 搭乗。M-ATモンゴル航空OM501便 成田着12:30予定。

- 以後、出発ロビーにてひたすら特機。日本語のアナウンスがないから不安。日本人同士、情報交換。しかし、確実な情報がなかなか得られない。
- インターネットで同日朝、宮城岩手地震があったことを知る。不安は高まるばかり。お昼すぎ、23時の搭乗、01時出発だと知る。18時間の遅延。
- 「出発ロビーを出る」と追い出される。無愛想な態度に唖然。
- 13:30 ガイド・エギーさんと再会。
ポルトさんも一緒。早速、車に乗り込む。携帯でしきりに連絡を取るエギーさん。テンギス・ハーンホテルを手配。ベッドの上で休めるのが本当に有り難い。感謝。
- 20:00 夕食
「金の豚」というラーメン屋。チャーハン・餃子・ラーメンのフルコース。なかなかうまい。ビールと焼酎が進む。
- 22:00 再び空港へ。出国手続き開始を待つ。
- 23:00 出国手続き開始。再び、エギーさん、ポルトさんと固い握手を交わし、今度は本当にお別れ。ポルトさんの確実な運転に、たとえ悪路でも爆睡できた。エギーさんはトラブルの際、手際よく、頼もしく私たちに安心を与えてくれた。二人のおかげで最高の旅となった。本当にありがとう！
- 01:00 「マツシイフバイアルラー！」
機体が小さいから座席が狭い。
- 06:40 着く。成田空港へ着陸。
- 08:00 朝食。空港内のレストラン。
キレイな盛り付け、そして丁寧な接客。日本に帰ってきたと実感。
- 08:52 成田エクスプレス乗車。
- 10:30 長野新幹線に全員乗車。

さあ、未知の国モンゴルへ

山越 敏雄
長野県労働金庫

山越団長の「発声」により、アサヒビールで乾杯。解団式。

今回のメンバーはみな「トラブルを楽しめる」という明るさと夕方を備え持っていた。おかげで思い出に残る良い旅であった。みなさん、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとう！

サンバイン、トクトーイ、バイアルラー！

大モンゴルの 壮大な大地のなかで...

加藤 茂
情報労連 (N-T労働)

ザワザワと外でなにやら話し声、ここは何処だ？ そうだ、首都ウランバートルから250km、ウンドゥルシレット村、リバーサイドキャンプのゲルの中だ。天窓から微かな月明かり。スバラシイネーの声に誘われて、ポケットの懐中電灯片手に、のこのことゲルの外へ、ゴツン！ 出口のドア枠(高さ170cm位)に頭をぶつけて目が覚める。

満天の星空？ 少々曇あり。思わず見上げて「らんらん」夜の「一」星を「一」つと口ずさみながら、見上げる。幼い頃に見たあの星空。最近星なんて見えない。誰かが、あれが北斗七星だよな、ジャあれば... 南の方向にあったひと



乗馬風景

いてくれた。)、ベントツのワゴン車でホテルへ直行となった。

「昨年のホテル(お湯が出なかった)のことを聞いていたので、不安があったが、ミツシエルホテルはごく普通のホテルの印象。お湯もすぐに出てゆつくりシャワーを浴びることができホッとした。

ホテル到着後、これからの旅行の無事を祈って乾杯。明日からの未知の体験を楽しみに消灯。ぐっすり眠ることができた。